人間行動学科
社会学コース

社会学コースってどんなところ？

社会学は、他の社会科学、たとえば経済学や法律学などのように、その対象によって明確に区別することができません。社会学のなかにも、経済社会学、法社会学などの分野があります。その意味で、社会学は「方法の学」であると言えます。ここで言う「方法」というのは、社会調査の技法や統計技法に限られません。むしろ、社会現象や人間行動をとらえる「視点」というべきものです。日常の個人間の行動からグローバル社会にいたるあらゆる現象に対して、一定の視点を基礎にしてデータにもとづいた研究をすることができる、これほど自由度の高い学問は他にないでしょう。「視点」と「技法」は訓練されますが、主題への応用は個人の関心に依る、何ともチャレンジングではないでしょうか。

先生はどんな研究をしているんだろう？

教授 進藤 雄三（しんどう ゆうぞう）先生

私は理論社会学、医療社会学、家族社会学を専攻にしています。医療社会学とは医療者と患者の関係の問題、制度の問題などを社会学的な視点で見るものです。社会学のユニークな視点のひとつにラベリング理論がありますが、これを医療にあてはめると、病というラベルを貼る行為が挙げられます。病というラベルが貼られると患者の責任が免除されます。たとえば、犯罪を犯しても、その人が心神喪失というラベルを貼られていれば刑罰を受けませんし、心神耗弱なら減罰になる、といったことがあります。このように、診断名、障害という名前が貼られることで、責任というものの社会的意味合いが変わっていくのです。私は最初から「この研究をやりたい」というのがあったわけではありません。おもしろさを追求していくうちにここまで来たのです。

わたしのいちおし授業

社会学概論Ⅰ・Ⅱ

この授業では社会学の基礎概念、分析方法を学び、社会学的思考を習得しながら、現代における社会学的課題をみんなでグループディスカッションします。いろんな意見が出てくるのでとてもおもしろい授業だと思います。

卒業論文タイトル紹介

○ならまちの生活観光
○イマドキ若者男子から考える男性問題
○ブラック企業からみる日本の雇用環境
——正規労働者と職種構造の変化——

日常で実感！コースでの学び

3回生 黒臺 陸（くろだい りく）さん

社会調査の方法などを習得する授業の中で「どのようにインタビュー調査を行ない、それをどうやって調査報告としてまとめるのか」ということを学びました。

3回生になってからは、実際に実習として、自分達で企業や団体にインタビューを行ない、報告書としてまとめていきます。その中で新聞やテレビなどで行なわれているインタビューがいかに繊細で難しいかを実感しました。

社会学コースから見た「食」とは？

ここでは社会学の個性を際立たせる分析事例を2つ、考えてみましょう。1つは、「食」が社会にとって持つ意味の分析です。「食」は生命維持に不可欠な素材を体内に摂取する行為ですが、同時にそうであるがゆえにこそ群居動物としてのヒトに「社会」形成のきわめて重要な契機を提供します。「食」をともにする、という行為は、敵ではない「身内」「共同体」をつくり上げるのです。「食育」が教育的文脈で語られるのは、単に心身の健康ということだけでなく、実は社会的健康とでもいうべき内容が実践知として感知されているからでしょう。もう1つ、近年興味深い対象として、グローバル化との関連があります。コーヒーの文化史を植民地支配と関連づけるという研究が近代を対象とした社会科学分析の典型とすれば、マクドナルドの世界的展開と現地化の同時進行や、和食であるスシのグローバル化とローカル化の同時進行という現象の研究は、現代世界の体験そのものを表現した研究と捉えることができるでしょう。

文：進藤先生

人間行動学科
心理学 コース

心理学コースってどんなところ？

心理学は、人間の感覚や知覚、記憶や思考、感情や欲求といったさまざまな心の働きを解明していく学問です。人や動物のとる行動は、これらの心の働きが複雑に絡み合って起こります。このような心の働きは、直接見たり触れたりすることはできませんが、観察可能な行動を実験や調査などの科学的方法を通して測定することにより推測することができます。行動の背後にある心理を知るための理論と方法を学ぶところが心理学コースといってよいでしょう。心理学コースでは、心の法則について、文献を読んで学ぶだけでなく、文献を通して知った理論が本当に正しいか、自ら実験や調査を行なうことによって確かめていきます。心の探求者を育成すること、それがこのコースの目標です。

先生はどんな研究をしているんだろう？

教授
池上 知子（いけがみ ともこ）先生

私が心理学に出会ったのは大学に入ってからのことです。元々文学に、とりわけ作品に登場する人物の心理描写に関心があったのですが、複雑で容易に捉えることのできない人間の精神世界に、自然科学的な方法でアプローチするこの学問が非常に新鮮に思え、心惹かれました。人間の内面に対する関心はずっと変わらず、人が他者をどのように理解するのか、その背後にどのような心理が働いているのかという点に特に興味があったことから、社会心理学を専門とすることになりました。今後は人間の潜在的な差別意識や偏見について研究したいと考えています。偏見には、それを持つ側の価値観や人生経験が反映されている場合があります。どうしてそれらが生まれるのか、それらを変えるにはどうすればよいのか、解明してみたいですね。人間や人間社会に対する問題意識・好奇心は尽きませんし、それが研究の原動力となっています。

わたしのいちおし授業

心理学実験演習

おすすめの授業は、やはり実験です。実験は1日で終わるものもあれば何週間もかけて行なうものもあります。2回生の時はさまざまな分野の実験に触れることができ、3・4回生になると専門を絞った実験をすることができます。毎週のレポート提出は大変ですが、同じコースの人と協力しあえるので仲を深めることもできます。

卒業論文タイトル紹介

○好意バイアスにおけるバイアス盲点現象の検討
○懐かしさを感じる音楽聴取と自伝的記憶の想起の関連について
○道徳判断における効用の影響の検討

日常で実感！コースでの学び

心理学の授業にはたくさんの分野があります。その中でも学習心理学という分野の授業で、人や動物に対して、一定の操作により特定の反射や反応を引き起こすように学習させるという「条件付け」を学びました。たとえば、「梅干しを見ると唾液が出る」というのも一つの例です。また、「条件付け」は動物に芸を仕込むときや子どもやペットのしつけなどにも応用されています。このように普段何気なく行なっていることでも、ある心理学的な理論にもとづいている場合がたくさんあるのだということを実感しました。

3回生
山田 紗也（やまだ さや）さん

心理学コースから見た「食」とは？

「食」は、人間にとって、命の源となる重要な営みです。理想的な「食」とは、栄養バランスのとれた食事を取ること、規則正しい食生活を送ること、みんなで団らんしながら食事すること、でしょう。これらは、心理学の理想的な学びにもあてはまります。人間には「知性」「感情」「意志」という3つの心の働きがあり、これら三大栄養素ともいうべき知情意の調和が大切と考えられています。人間を理解するには、これらについてバランスよく学ぶことが必要です。心理学は日々の積み重ねが物を言います。心理学は実験や調査により地道にコツコツ集めたデータのうえに成り立つ学問だからです。心理学徒は、毎日決まった時間に人や動物の行動を観察し記録しています。人間の心の働きは一人の力ではなかなか解明できません。志を同じくする複数の者が「心理学」という食卓を囲み、喧々諤々議論し、知恵を出し合い問題に取り組まなければなりません。これらが「心理学」の「食」し方の常道といってよいでしょう。

文：池上先生

学情には、学生なら自由に使えるパソコンルームやDVD鑑賞などができるところもあります。

人間行動学科

教育学コース

教育学コースってどんなところ？

教育学コースの卒業生の約2割は教員になっていますが、多くの人は公務員になったり一般企業に就職したりします。「学び」や「教育」の営みは、学校の中のみならず、家庭や職場や社会の中のいたる所にあります。また、学校教育に話題を絞ったとしても、公務員として、企業人として、家庭人として、学校教育とかかわりのない社会生活はありえません。本コースでは、そういった「学び」や「教育」を学問的な手続きを踏まえて深く考える訓練を丁寧に行なっています。また、授業時間以外の学生相互の学び合いを重視しており、宿泊研修旅行や学習会などの活動も学生自身が企画・運営・実施することを奨励しています。時間と空間を共有するのが大学のすばらしさと考えています。

先生はどんな研究をしているんだろう？

准教授
添田（そえだ） 晴雄（はるお） 先生

私は、授業中に使用される言語が音声なのか、文字なのかという視点から教育文化の国際比較をしています。江戸時代の日本の初等教育では文字を書くことが教育内容であり、かつ教育方法であったのに対し、中世の西洋では覚えたことを教師の前で音声で暗誦するのが授業の中心でした。日本の教育場面で文字を多く使う理由は、同音異義語が多いなど文字依存性が高いという日本語の特徴があるためです。ニュース番組でフリップを見せながら説明することは日本特有ですし、人名や地名を覚える際に音だけでなく漢字でも確認した方が覚えやすいことも特徴と言えます。元々、英語教育や言語に関心があり、こういった研究を始めたのですが、その研究成果を自分の大学の授業にも活かし、文字を介したコミュニケーションを指導したり、思考の道具としてのノート活用術を教えたりしています。

卒業論文タイトル紹介

○同僚との関わりにおける新任教員の感情の意義に関する考察
○大阪市立大学における初年次教育のあり方
○不登校問題から学校教育を問い直す

わたしのいちおし授業

教育学実習

この授業では実際に、幼稚園、小学校などの教育現場にボランティアに行き、教室の中にある掲示物の工夫や、教師の働きかけを観察します。そして受講者に向けてそれを発表し、共有します。自分たちが学んできた教室には非常に多くの工夫が隠されており、教師の言動一つとっても教育的な意味があることに気付けました。

日常で実感！コースでの学び

3回生
岡（おか） 杏紀（あずき） さん

給食や部活動という当然のものとして体験してきた学校活動の教育的意義を考えてみると、本当にたくさんあります。そうすると、今まで受けてきた教育の意味を再認識できます。たとえば、日本の給食は全員が同時に同じものを食べますが、それには給食を教育的活動として捉えているという日本の特徴が見出されます。このように海外の教育と比べることで、日本の教育のよいところをたくさん発見できました。必ずしも将来教員になるつもりでなくても、日本を教育という側面から捉えなおすことができると思います。

教育学コースから見た「食」とは？

小学校に給食があるのは当たり前ですよね。でも、世界的にみると日本の給食はかなりユニークです。アメリカにも学校給食がありますが、弁当持参か給食かを選べます。配膳をするのは子どもではなく大人です。食堂で指導にあたるのは学級担任ではなく、校長かボランティアの大人です。日本では、学級担任が給食を通して「食」の指導をするのが当たり前です。子どもはエプロンやマスクをつけて給食当番をしながら、協力の大切さや衛生管理を学びます。「いただきます」の意味が、単に「食べますよ」ではなく、配膳をしてくれた仲間、料理をしていただいた方々、農作物をつくっていただいた方々、命をいただいた動物や植物に対する感謝の意味を含むということを学びます。韓国では配膳の準備が整った人から食べ始め、食べ終わった人からかたづけますが、日本では必ず、全員揃ってから「いただきます」「ごちそうさま」をします。日本の教育文化の特徴がよくあらわれています。

文：添田先生

人間行動学科

地理学

コース

地理学コースってどんなところ？

地理学コースには、都市地理学、政治地理学、文化・社会地理学、東南アジアの地域学、地理情報学など多彩な分野を専門とする教員が5名います。研究する分野は異なりますが、いずれの教員も「空間」や「場所」、あるいは「地域」という視点から研究を進めています。地理学コースは、伝統的に野外調査を基本とする研究を重視しています。なぜならば、現場で初めてわかることがたくさんあるからです。自分が興味のある研究テーマに対して、現場に出向き、現場で資料を収集し、現場で人から話を聞くことにより、研究を進めていきます。受験生のみなさんで、街づくりや観光に興味のある方、あるいは旅が好きな方、ぜひ、地理学コースで学んでみませんか？

先生はどんな研究をしているんだろう？

准教授
木村（きむら） 義成（よしなり） 先生

私は地理情報学を専門としています。単純に地図を作るだけでなく、情報を空間的に扱う学問です。一目見ただけではわからないような数字の情報を、グラフや色を利用しながら地図上で表現することで、地域的な特徴を把握することができます。さまざまな分野の人と交流して問題への対策を考えるなど、実社会につながっているという部分に最も魅力を感じています。元々学生のときは理学部だったのですが、一般教養で受講した地理の授業をきっかけに、大学院で地理を学ぶことにしました。分野の広さや人にかかわれるところに惹かれました。分野が広いゆえに、地理以外のさまざまな分野の知識を日々身につける必要があることや、身近な生活の中でどう世の中が動いているのかが自分の研究を通してわかることが、研究を続ける原動力となっています。

卒業論文タイトル紹介

○京扇子にみる分業構造の変化
○みなべ町から見る梅産業
○闘犬の観光化と衰退――闘う動物へのまなざしの功罪――

わたしのいちおし授業

地理学野外調査実習Ⅰ

この授業ではフィールドワークの練習をします。国内のある地域を調査対象にしていくつかテーマを決め、現地に行って対象を観察し、関係者に聞き取り調査やアンケート調査をします。昨年は福岡県久留米市周辺でした。その地域の文化・風土に触れることができるので、楽しめると思います。

日常で実感！コースでの学び

3回生
深江（ふかえ） 祐樹（ゆうき） さん

私は普段行き慣れないところに行くときにGoogle Mapsを使いますが、コンビニや交差点、喫茶店などがわかりやすい記号を使って表現されていて、地図が与える情報量や印象がどのデータを使ってどう表現するかで変わることを実感しました。専門の授業では警視庁が公開している犯罪情報マップを例に説明されました。数年前までは町丁の犯罪件数をそれぞれの町丁ごとの面積で割った値であらわされていましたが、現在は犯罪件数だけであらわされており、数年前の方が地域の犯罪情報をよりリアルに表現していました。

地理学コースから見た「食」とは？

大学で学ぶ地理学では、人間と環境との関係、あるいは自然環境と社会環境との関係を考察します。たとえば、「食」というキーワードを地理学で考えてみると、「食材」はその「食材」が育つ、あるいは生産に適した環境があります。また、「食文化」は地域によって異なります。したがって、地理学では、このような「食」を取り巻く環境や地域性を伝統的な研究テーマとして取り扱ってきました。また、流通が発達することにより、地域ごとの「食材」や「食文化」は他の地域に広がっていく（空間的に拡散していく）こともあるでしょう。このように、「食」というみなさんにとって身近なテーマも、地理的な視点で取り組むことができ、「食の現場」で実際に「食べ」、現場で資料を収集し、現場で人から話を聞くことにより研究を進めていきます。

文：木村先生

学情には数多くの自習コーナー・自習室、談話室や休憩室があります。発表の練習や会議などができるグループ学習室も充実していますよ。